

人権だより

第3号:重点月間の取組の紹介(小学部) 令和5年10月13日(金)

10月になって長かった夏も終わり、ようやく秋めいてきましたね。本校では今月末に「松東レクリエーション」が実施されます。子どもたちは「松東レク」に期待を膨らませ、毎日の活動に楽しく笑顔で取り組んでいます。世間ではタレント所属事務所の問題など、相変わらず人権問題が採り上げられない日はないといっても過言ではありませんが、子どもたちの明るい笑顔でそんな問題を吹き飛ばしてもらえたらと願わずにはいられません。さて今回の取組紹介では、小学部A-3組の実践をご紹介します。

小学部A-3組の取組紹介

「友だちとなかよく ～およげないりすさん～(どうとく)」

◆本時の目標◆

- ・友達の気持ちを考え、友達と助け合って仲良くすることの大切さが分かる。
- ・友達と仲良くするためには、友達の立場になってその気持ちを考えることが大切であると気づき、どのように行動していくことが良いか考える。
- ・友達の気持ちを考えて行動することで、よりよい友達関係を築き、友達のよさをより強く感じ、助け合っていこうとする意識を高める。

◆学習内容◆

- ①友達の好きなどころを考え、伝え合う。
- ②友達に助けてもらった経験について尋ね、経験がある場合はそのときの気持ちを思い出し伝える。
- ③登場人物になりきって、相手に手紙を書く。

① →

りす「僕もあの島に行って遊びたいな・・・」
あひる「りす君は泳げないから、だめだよ！」

② →

「りす君がいないと遊んでいてもつまらないよ・・・」

③

かめ「りす君、僕の背中に乗って！一緒に行こう！」
あひる「みんなで遊ぶと楽しいよ！」

◆子どもたちの様子◆

- 子どもたちは、スライドを使用した教師の説明をしっかりと聞いていました。
- 子どもたちから「りす君かわいそう・・・」とつぶやいたり、「一緒に遊べば良かったのに」など、りすを思いやる言葉が自然と出てきたりしました。
- 手紙を書く活動では、「りすさん」「他の3匹」の両方になりきって手紙を書きました。第三者として「(りすさんを)おいてこなければ良かったのに！」という発言もありました。
- 「自分が困っている時に友達が助けてくれたらうれしい」、「友達が困っていたら助けたい」という感想が聞かれました。

8月24日に人権教育の全体研修会を行いました

夏休み中の8月24日に、外部講師をお招きして本校職員を対象とした「人権教育の全体研修会」を行いました。今回は【学校現場における多様な性への理解と支援】をテーマに研修会を計画し実施しました。

講師の今坂洋志先生は小、中学校の元教員で、30代から性教育をライフワークとされ、熊本での性教育の勉強会を続けて来られました。現在は「全国性教育研究団体連絡協議会常任理事」や「ともに拓くLGBTQ+の会くまもと」の代表を務められております。

今回の研修会を通して、性的マイノリティの方についての基礎的な知識理解を学ぶことができました。また、性的指向・性自認に関する諸問題を正しく理解し、人権問題と関連付けて考えられる機会にもなりました。今後の実践にも役立てていきたいと、一人一人が思いを強くしたところです。